

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	東淀川区
学 校 名	東淡路小学校
学校長名	佐野 仁志

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・東淡路小学校では、第6学年 63名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

平均正答率については、国語69%・算数61%・理科58%となっており、大阪市平均（国語65%・算数58%・理科55%）、全国平均（国語66.8%・算数58.0%・理科57.1%）ともに上回ることができた。

平均無回答率についても、国語2.0%・算数3.0%・理科2.0%と低く、大阪市平均（国語2.8%・算数3.3%・理科3.0%）、全国平均（国語3.3%・算数3.6%・理科2.8%）ともに下回っており、粘り強く問題に取り組む姿勢がうかがえた。

分析から見てきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕学習指導要領の領域「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」において平均正答率を全国と比べると、各領域で上回ることができた。特に「読むこと」においては、4ポイント近く上回ることができ、記述式の問題においても正答率が63.4%（全国58.8%）と高かった。

〔算数〕学習指導要領の領域「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」において平均正答率を全国と比べると、各領域で上回ることができた。特に「図形」においては、8ポイント以上高い結果となった。しかし「データの活用」の問題の中には、全国正答率が31%で、本校正答率も26.8%と低いものもあり課題が見られた。（適切なグラフを選び、そのわけを記述する問題。）

〔理科〕学習指導要領の領域「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」において平均正答率を全国と比べると、「エネルギー」のみ下回る結果となった。中でも3年生で学習する「電気の通り道」にかかわる問題で、正答率が12.3%（全国10.6%）、38.6%（全国42.9%）と低いものがあった。

質問調査より

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に対して、最も肯定的な「当てはまる」が67.2%で、全国（81.4%）や大阪市平均（82.1%）と比べてかなり低い結果となった。（「どちらかといえば、当てはまる」まで広げると、89.6%）今後は、いじめに関する年間指導計画に従い実践することで、「当てはまる」と回答する児童を増やしていく。

○「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問に対して、最も肯定的な「当てはまる」が67.2%で、全国（55.3%）や大阪市平均（61.5%）と比べてかなり高い結果となった。今後も子どもたちの良いところを褒め、伸ばしていくような児童理解に努めていく。

今後の取組(アクションプラン)

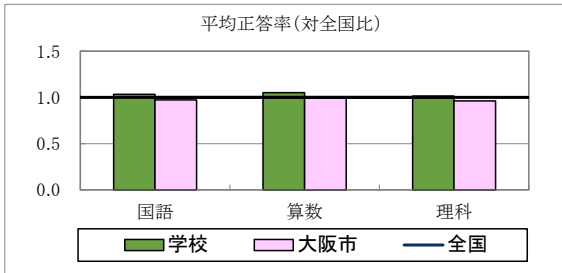
国語においては、言語力の基礎となる漢字の習得のため、2学期に校内漢字検定、3学期に1～4年生は校内漢字検定、5・6年生は日本漢字能力検定を実施する。また、授業づくりの工夫や、言語活動の設定や学習活動の工夫を通して、さらなる学力向上をめざしていく。

算数においては、学年ごとに指導計画や板書内容の調整を図り、学びサポーターなどを活用した指導体制を維持することで、個に応じた指導を充実させていく。さらに、一人一台端末や自学自習ノートの活用、放課後補充学習「ひがあわタイム」の取り組みを通して、基礎的・基本的な知識や技能の定着を図っていく。

【 全体の概要 】

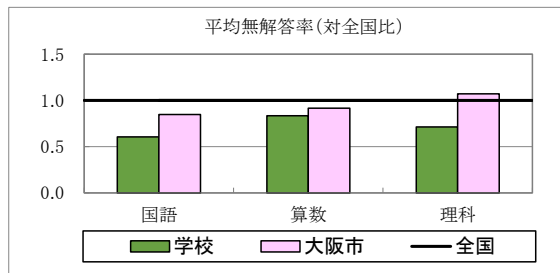
平均正答率（％）

	国語	算数	理科
学校	69	61	58
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1



平均無解答率（％）

	国語	算数	理科
学校	2.0	3.0	2.0
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8



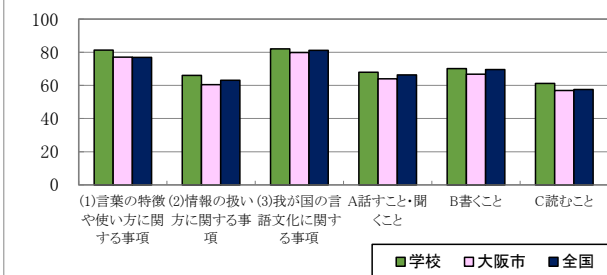
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	2	81.3	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	66.1	60.4	63.1
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	82.1	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	67.9	64.0	66.3
B 書くこと	3	70.2	66.7	69.5
C 読むこと	4	61.2	56.9	57.5

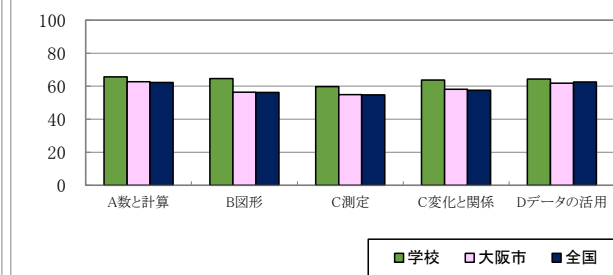
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	65.6	62.7	62.3
B 図形	4	64.7	56.4	56.2
C 測定	2	59.8	54.9	54.8
C 変化と関係	3	63.7	58.2	57.5
D データの活用	5	64.3	61.9	62.6

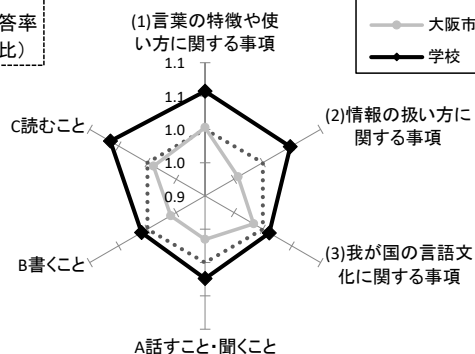
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



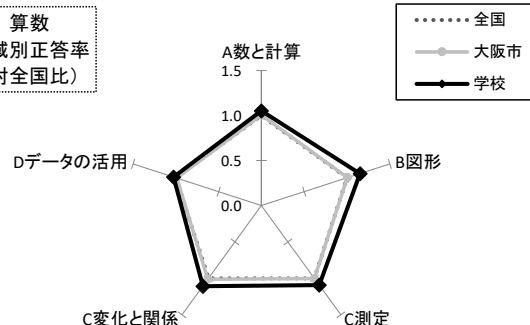
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)

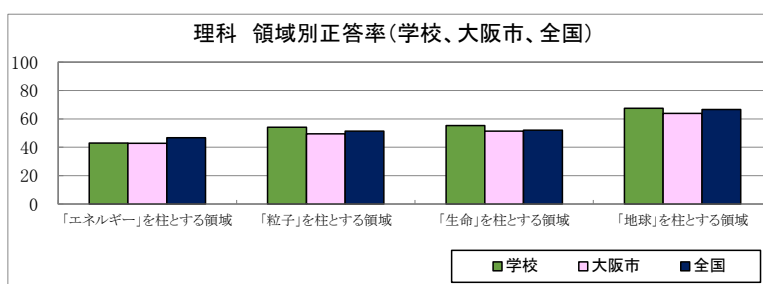


算数
領域別正答率
(対全国比)

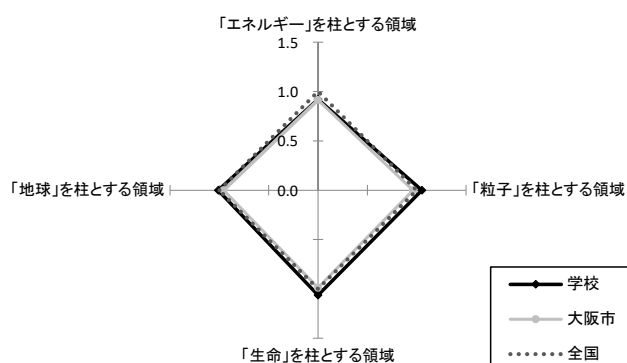


【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区 分	「エネルギー」を 柱とする領域	43.0	42.7	46.7
	「粒子」を 柱とする領域	54.1	49.5	51.4
B 区 分	「生命」を 柱とする領域	55.3	51.4	52.0
	「地球」を 柱とする領域	67.5	63.8	66.7



理科 領域別正答率(対全国比)



児童質問より

質問番号

質問事項

1

朝食を毎日食べていますか

1

2

3

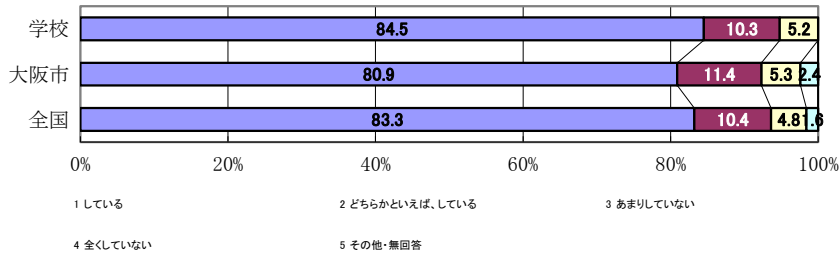
4

5

6

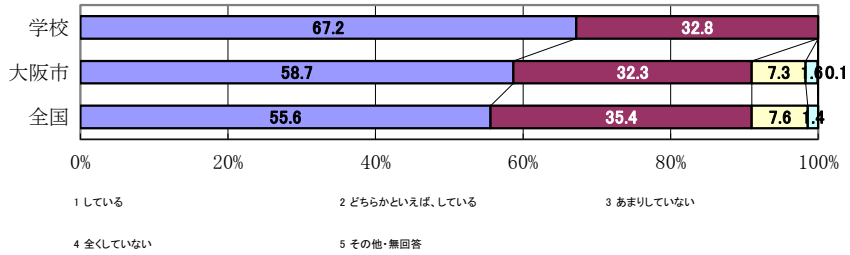
7

8



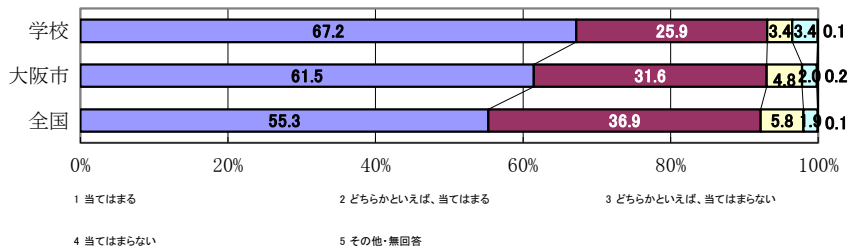
3

毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



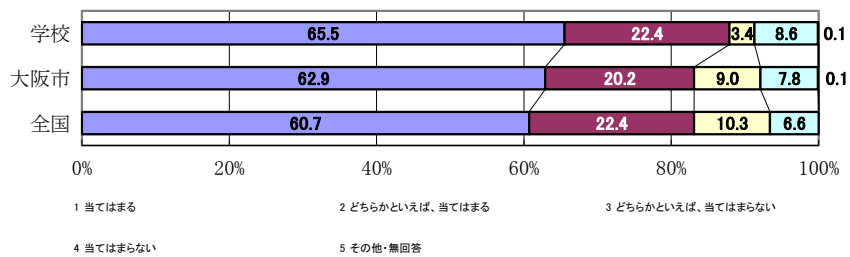
6

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



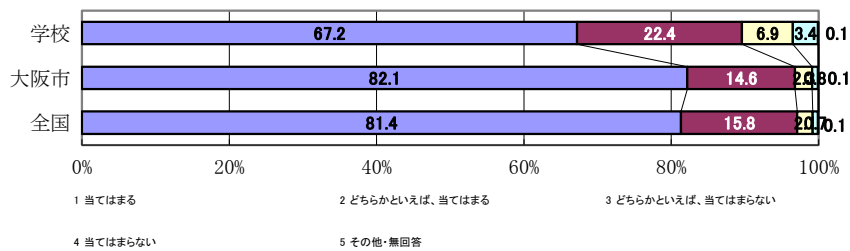
7

将来の夢や目標を持っていますか



9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



児童質問より

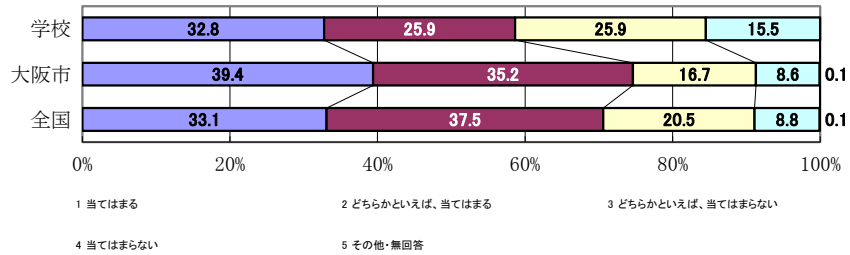
質問番号

質問事項

10

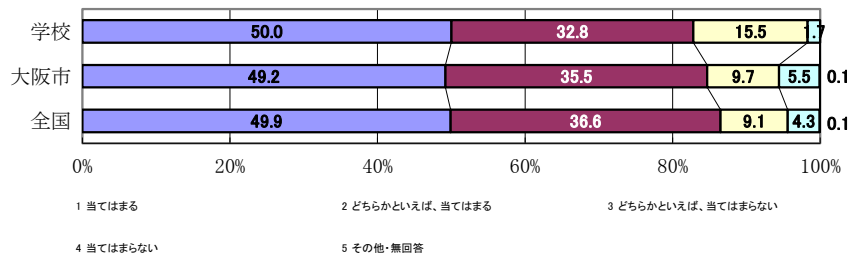
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか

1 2 3 4 5 6 7 8



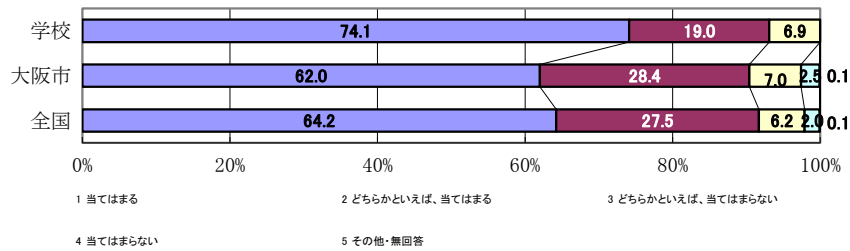
12

学校に行くのは楽しいと思いますか



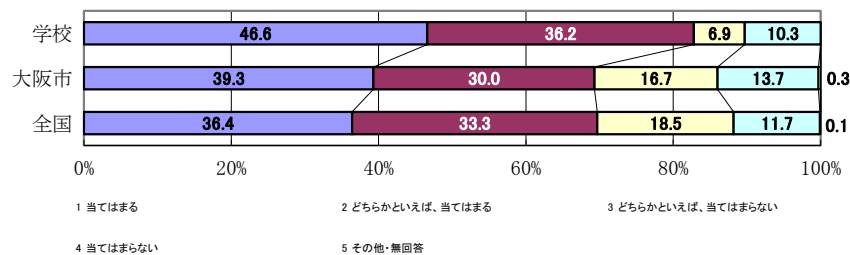
14

友達関係に満足していますか



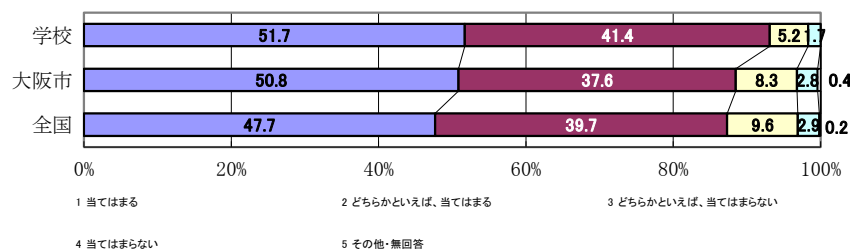
24

読書は好きですか



38

先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか



学校質問より

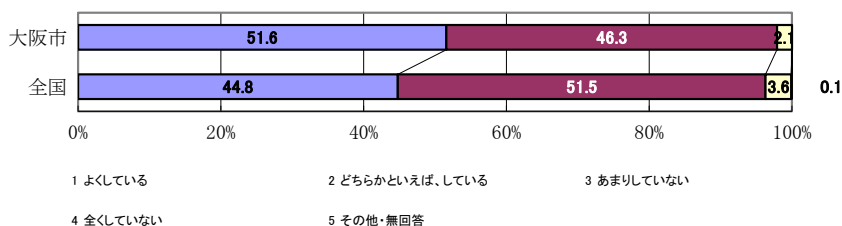
質問番号

質問事項

17

言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか

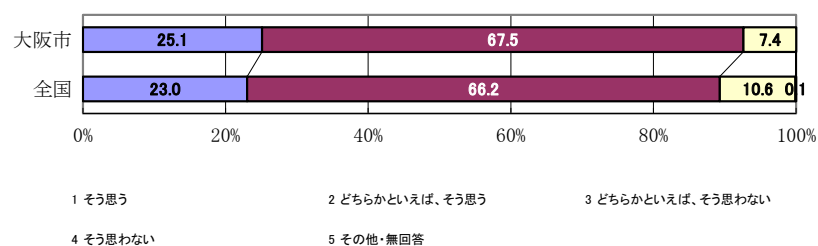
学校 「よくしている」を選択



27

調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか

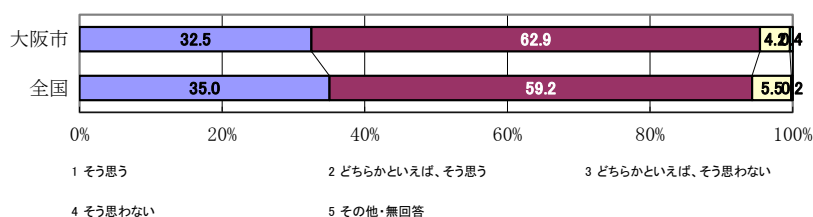
学校 「そう思う」を選択



28

調査対象学年の児童は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思いますか

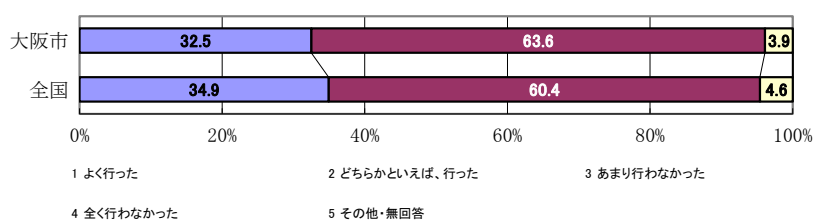
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



31

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習指導において、児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか

学校 「どちらかといえば、行った」を選択



37

調査対象学年の児童に対して、学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っていますか

学校 「どちらかといえば、している」を選択

